

サトリの
ココロ

多くの人が孤立感、生きにくさを感じる今、
仏教に興味を持つ人が増えています。
僧侶に聞く、弱い自分と向き合う方法——

日蓮宗長善寺副住職
大澤宏明さん

第105回

私はお寺の長男として生まれ育ちましたが、お寺は365日営業「自分には何か違うな」と思っていました。住職である父からは「自分の好きなように生きていけ」。大学時代はダイビングに夢中になりました。卒業時に、悩みに悩みましたが「お坊さんになろう」と決意。誰かが敷いたレールではなく、自分で選んだ道。だから今は楽しくお坊さんをしています。

大学卒業後は日蓮宗新聞社に7年間勤務。その後、「一度は海外に出て外の世界を見たほうがいだろう」と考え、30歳のときに



上／東京・杉並区高円寺の住宅街にある1590年創立の長善寺。右・下／いけばな体験や写経など、外国人も多数。11月1～6日展「terrart(寺アート)」を開催。



地域の人が集い、学ぶ。
お寺を現代の寺子屋に

おおさわ・こうみょう 1971年生まれ、東京都出身。立正大学仏教学部卒業。長善寺副住職として「地域に愛されるお寺」を目指し、さまざまなイベントやワークショップを企画・開催するなど精力的に活動中。現在、Neo寺子屋の代表と、NPO法人ウインウインの理事を務める。長善寺ホームページでお寺のPR動画やイベント情報を発信中! <http://www.chozenji.com>

楽しいイベントを通して 地域に愛されるお寺に

アメリカへ。サンノゼにある日蓮宗寺院の門を叩き、住み込みで修行をしながら語学学校へ通いました。1年半ほどで帰国しましたが、外から日本のお寺を見たことで「もつと新しいことをしなければ」という思いが強くなり生まれました。

現代に即したお寺づくりをしたい。そのためにはインターネットを使って発信していかなければ……そんな思いからホームページを立ち上げました。ホームページの立ち上げ時に材料や画像を借りたり、その後「PR動画を作ってみよう」と話をしたら、「こういう業者さんがいますよ」。いろいろな繋がりを持っている地元のみなさんが紹介してくれて、新しいご縁が生まれています。地元の人たちと一緒に作ることで、地域をもっと盛り上げられれば、地域に根ざしたお寺にすることが私の使命だと思っています。

お寺では折り紙教室や英会話、いけばな体験など、さまざまなイベントを行っています。それも、お寺を地域の人々が集まる場にしたから。お寺は祈る場所ですが、元々は寺子屋＝学ぶ場所でもありました。老若男女にここで学んでほしい。ときにはこの場で悩みを吐き出して、心を軽くしてほしい。私が目指すのは現代の寺子屋。みんなが集い、学び合えるコミュニティを作りたいと思っています。

万国共通語の「かわいい」を テーマにしたアート展開催

11月1日(金)～6日(水)、仏教とアートを融合させたイベント「terrart(寺アート)」を開催します。テーマは「kawaii!」。かわいいアートに世界の人々の幸せを願う想いを込めて、長善寺から発信します。ユニークなことをやっているお寺、誰もが入りやすいお寺、それが長善寺。この機会に多くの人に知っていただければうれしく思います。